

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び②地域性③生きる力④協働・地域社会への発信	ふるさとを愛し 夢に向かって たくましく生きる子	一人で行動できる・人と関わり共に生きる	学力をつける学校	① 全学年教科担任制を通して、個に応じた支援体制の構築	1)「好きな教科、得意な教科がある」と言える児童の割合を90%以上を目指す。	A	◎児童アンケートで評価の高い項目 「できた・わかったと感じる授業」:98% ※学習課題に対して主体的に取り組み、児童が達成感を感じる授業がおこなえている。 △児童アンケートで評価の低い項目 「授業中に、わからない・できない」と言える:91% ※わからないことを、「わからない」と言えるように、授業改善や人間関係の向上を進めていく。 ○読書について 昨年度よりも貸出冊数が、5,400冊→7,600冊と増加した。また、朝読書の時間に読書を楽しんでいる児童が100%であった。
					① 自分の考えをもち、主体的に学びを深める子の育成	1)まず、自分の力だけで挑戦した後、「分かりません」といつでも言える子の割合87%→100%にする。	B	
					① 仲間とともに学びを深め合う子の育成	1)仲間の考えと関わらせながら自分の考えを発言する場を位置づける。	A	
					① 年間を通した朝読書の実施	1)読書を通して心を豊かにするとともに、国語力をつける。(昨年度より貸出冊数の増加)	A	
				安心して生活できる学校	② 日常から縦割り活動を活かしたピアサポートの展開	1)縦割り掃除、全校遊び、全校給食を実施していく中で、異学年との交流の良さを感じる児童の割合を91%→100%にする。 2)お互いの違いを認め合い、一人ひとりに合った関わりをする中で、人権感覚を高める。	A	◎児童アンケートで評価の高い項目 「異学年の子と仲良く遊んだり、活動する」:98% 「仲間のことを思いやり、気持ちを考えて行動したりしている」:100% ※異学年での遊びや活動の場面を増やしたことにより、異学年との交流の良さが感じられた。また、相手を思いやる心情が育った。 △児童アンケートで評価の低い項目 「になりたい自分の目標に向かって努力している」:93% ※スモールステップの目標を決めさせたり、頑張りを認める他者の評価を位置付けたりする。
					② 目標に向かって何事も最後まであきらめない子の育成	1)生活面、学習面の両方で、になりたい自分や達成するための方法を定期的に振り返る。	B	
					② 全教職員で、いじめや不応対事案の早期対応、未然防止→働き方改革の柱	1)全教職員で個に応じた教育相談体制を構築し、不登校児童0人を達成するとともに、教職員の心身の健康も図る。	A	
					④ 協働の学校	1)校区連携の3つの柱(学習・道徳、生徒指導・特別活動、教育相談・特別支援教育)を踏まえ、小中連携をさらに深め、活動が有効であると感じる教職員を100%にする。 2)地域との連携をより充実させるとともに、積極的に情報発信を行い、地域に愛される学校を目指す。	A	
				協働の学校	③ 義務教育学校設立に向け、中学校や地域との連携	1)朝高子どもしとねる会を中心として、郷土について学ぶ。地域が好きな児童の割合100%を目指す。	A	◎アンケートの評価 児童:「地域が好き、地域に貢献したい。」 保護者:「学校、地域、家庭が連携し、子育てをしている。」 職員:「保小中の連携した活動ができています」の項目が100% ※保小中の連携、学校・地域・家庭の連携がとれている。地域の関係機関との連携を推進、充実していく。
					③ 9年間を貫く郷土教育の充実		A	

学校運営協議会における主な評価内容

○学校アンケート(保護者、児童)の結果から、教育目標の達成に向けて概ね好評価をいただいた。
○特に、少人数の良さを生かした教育活動や、義務教育学校開設に向けて、保・小・中・地域の連携を深めに、特色ある学校経営を推進していくように意見をいただいた。